

『読書会』 ～ 『人生の特別ゼミナール』 ～

2025 年 2 月 20 日は、新渡戸稲造記念センター ー> 東京女子大学(Tokyo Woman's Christian University, 1918 年設立 初代学長新渡戸稲造)の理事会に向かう。

アメリカ、ドイツへ留学した新渡戸稲造(1862-1933)は、1891 年メリー・エルキントン(新渡戸萬里子)(1857-1938)と結婚し一緒に帰国した。新渡戸稲造は、軽井沢へは 1905 年からメリー夫人と共に訪れ別荘を設けて避暑生活を行っている(添付)。【『明治初期は人口わずか 500 人だった信州の寒村が日本でも有数なリゾートになった理由がここにある』とも言われている。また学問・教育の世界では、東大教授と第一高等学校校長の兼任、東京女子大学学長などを歴任した。そして第一次世界大戦後、国際連盟設立に際して、初代事務次長に選任され、世界平和、国際協調のために力を尽くしている。】

2 月 23 日は、2007 年から始めた東久留米での『読書会』(添付)である。今回は、新渡戸稲造著【武士道 7 章『誠』】である。担当は森尚子氏と三国浩晃氏である。『読書会』は 8 周年目である！ 東久留米での『読書会』の原点は、【戦後初代東大総長であった南原繁(1889-1974)のご長男：南原実先生(1930 年 11 月 12 日～2013 年 11 月 12 日)が、東京大学の教授を辞職し、夏は秋田に住まれ、隣接の旅館の女将さん達と読書会(プラトンの学び)をされた & 順天堂大学医学部の教授室で学生達と読書会を始めた】である。

『環境問題のバイブル』と言われる、アメリカの海洋生物学者：レイチェル・カーソ(Rachel Carson 1907-1964)の『沈黙の春(Silent Spring)』(1962 年)が出版され、日本語訳は、南原実先生によって出版されている(ペンネームの為に知る人ぞ知る)。筆者は、南原繁没 30 周年記念事業でスタートした『南原繁研究会』(2004 年)以来、南原実氏とは毎年、wife と一緒にお逢いして、夕食をしながら、親しい深い学びの時間が与えられた。まさに、筆者にとっては『未来に生きる君たちに』(南原実著)の貴重な得難い『人生の特別ゼミナール』の時間であった。

開校記念 公開シンポジウム

「21世紀の軽井沢夏季がん哲学学校」

～内村鑑三と新渡戸稲造の構内形～

日 時：2017年7月17日(月・祝日)13:00～16:00

【挨拶】本郷 一博 信州大学医学部附属病院 前病院長 脳神経外科教授

【朗読】青木 裕子『武士道』新渡戸 稲造 著

軽井沢朗読館 館長(元NHKアナウンサー)

座長：北澤 彰浩 佐久総合病院 地域ケア科医長



【基調講演】樋野 興夫『21世紀の軽井沢がん哲学学校』の現代的意義

順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授(一般社団法人がん哲学外来理事長)

座長：小泉 知展 信州大学医学部附属病院 信州がんセンター長



【がん哲学外来カフェ】お気軽に対話いたしましょう ※裏面よりお申込下さい

荻原 菜緒 佐久総合病院 地域ケア科医長 「あうんの家カフェ」 etc

【会場】：シオン軽井沢 2階 会議室AB (開場 12:30)

【定員】：56名 無料 ※裏面よりお申込下さい

新渡戸稲造が1918年に開講した「軽井沢通俗夏季大学」の初代学長を務めた軽井沢で、『軽井沢夏季がん哲学学校』の開校である。「明治初期は人口わずか500人だった信州の寒村が日本でも有数なりゾートになった理由がここにある」とも言われている。まさに、軽井沢には『想像力を刺激するものが数限りなくある』である。

日本人の3人に1人が、がんで死亡し、2人に1人が、生涯の中でがんにかかる時代。

がんに対する正しい理解と認識を深めることは、人間としての生き方を再確認して、生きる力に変えていける方々が増えている。『人生に期待する』から『人生から期待される』生き方への変換である。

『純度の高い専門性と社会的包容力』を備え、『病気であっても、病人でない』の社会構築は、これからの人類の進むべき方向であろう。

がん患者さん、ご家族やご遺族、がん医療に携わる医療スタッフ、がん領域に興味をお持ちの方等が集い、各々の立場の垣根を越えて「がんについて、人生について」を一緒に語りましょう。

※お申込み裏面参照

※会場の都合上、定員となり次第お断りする場合がございます。ご了承ください。

主催：軽井沢夏季がん哲学学校

協賛：東邦ホールディングス、東邦薬品、ファーマクラスター、共創未来ファーマ

後援：信州大学、信濃毎日新聞、佐久総合病院、軽井沢朗読館、「追分あうんの家」 etc